

「 きれりと光るまちの人

SMILE UP!

Vol.13

松尾 具美 さん

MATSUO TOMOMI

### きららガラス未来館のガラス作家

約 1,200 度の溶解炉の中で溶けたガラスを金属製のパイプで巻き取り、息を吹き込んで形を作る「吹きガラス」。制作する工程を「自分との戦い」に例える。「あらかじめ制作工程を確認し、やわらかいガラスと向き合う時間は、まさに戦っている感じ。検証し考えながら作る工程が好きですね」と笑顔で話す。ガラスの魅力や「キラキラして綺麗なところは言うまでもなく、どうやって作られているのか想像するところや、年数を重ねることに見方が変わってくるところに奥深さや楽しさがある」と語る。

幼い頃から清水焼が身近にあったり、母が美術館に連れて行ってくれたり、ガラスや工芸品に触れて育った。進路を考える時に、ガラスってどうやって作るのだろうと不思議に思ったのがガラスの道に進むきっかけだった。大学卒業後、ガラス作家を養成する富山ガラス造形研究所で2年間学んだ。その後、きららガラス未来館を見学に来た際、本市在住のガラス作家である西川慎先生と池本美和先生による吹きガラス講座を見学した。受講生の学びたいという意欲と熱意に圧倒されるとともに、教える側の喜びにも触れ、ガラスの楽しさを再認識して同館への就職を決めた。

「ガラスのまち山陽小野田」に来て 11 年目。小学生の時に体験に来てくれた子が、大人になって自分の子どもを連れて来てくれることもあるそう。「自身の体験を子の世代に伝え、繋がっていくことの喜びをお客様を通して体感しています。みなさんの人生の中でガラスが節目節目で関わっていただけると話す。「ガラスは空間に彩りを添えるもの。ガラスを山陽小野田市で買う、きららガラス未来館に行きたいと、日常で当たり前のようにみなさんの価値観の中にガラスが入ってくるようになればうれしいですね」



Profile・京都市出身。京都精華大学芸術学部造形学科卒業後、富山市立富山ガラス造形研究所造形科で学ぶ。2010 年からきららガラス未来館でガラス作家として活動しながら技術スタッフとして働く。写真左下は 2021 年に開催された第 8 回現代ガラス展でホームラ審査員賞を受賞した作品「ひと雫」。また、人気の絵付け作品(写真右下)は同館で販売しているほか、ふるさと納税の返礼品にも登録している。



えがおが  
いちばん!!

★対象：小学校就学前までのお子さん

①お子さんの写真(プリントしたものまたはデジタルデータ)②お子さんの名前(ふりがな)③生年月日④年齢⑤性別⑥親の名前⑦郵便番号⑧住所⑨電話番号⑩15文字程度のコメントを記入した申込書を添えて提出

(郵送、E-mailでも可)



〒756-8601 山陽小野田市役所  
シティセールス課広報係 (☎ 82-1148)



かわばた みのり

川畑 実李ちゃん (3 か月)

抱っことお風呂が大好きです♪



おかだ あおい

岡田 蒼生くん (5 歳)・梨央ちゃん (3 歳)

仲良し兄妹! 元気に育ってね♪

